

氏名	高 橋 裕 彦		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博 乙 第 2782 号		
学位授与の日付	平成 6 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	Clinicopathological Analysis of de Quervain's Disease (de Quervain病の臨床病理学的検討)		
論文審査委員	教授 折田 薫三	教授 赤木 忠厚	教授 村上 宅郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

de Quervain病患者35例（男6例，女29例）の手術中に切除した伸筋支帯第1区画および腱滑膜を光顕および電顕で観察した。患者の年齢は22歳から78歳であり，解剖実習屍体170体（男95例，女75例）から得た232の手関節をコントロールとして観察した。手術例の伸筋支帯と腱滑膜は肉眼的には肥厚しており，組織学的に隔壁の有無，支帯の肥厚の局在により，4つのグループに分類した。臨床的には岩原・野末のテストが正確に短母指伸筋側の肥厚の状態を示唆していることが確かめられた。組織学的には腱滑膜と支帯の肥厚は各々の層における線維化のためによるものであり，線維化は主として支帯の中間層にみられ，線維芽細胞の増殖や粘液様変化，硝子様変化，血管増殖などが散在してみられた。また，円形細胞浸潤は腱滑膜でも支帯と同様に認められた。臨床病理学的分析にもとづいて，我々はde Quervain病は表面の摩擦のような外的要因だけでなく，他の内的要因も関与してひきおこされると考えた。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

de Quervain病 (stenosing tenosynovitis, stenosing tendovaginitis) は手関節部の狭窄性腱鞘炎とされているが，その病因については定説がない。本研究者は同疾患35手術症例の切除伸筋支帯と腱滑膜を，解剖実習屍体170体のそれを対照として，光顕，偏光顕

微鏡，電顕で観察している。本疾患の病因には外的要因による慢性炎症による伸筋支帯と腱滑膜の肥厚に，ホルモンなどの内的要因が加わっていることを明かとした。臨床上，重要な知見であり，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。